

NPO
法人

芦安フアンクラブ通信

第 36 号
冬 号

特定非営利活動法人芦安フアンクラブ
事務局 南アルプス市芦安 芦安一五八九-八・大樺 栗道
〒〇五五-二八八-二五三三 F 〇五五-二八八-二五

URL=http://www.catv.wakwak.com/~kitadake/
E-mail=ranantan@blue.ocn.ne.jp

北岳ニホンジカ

移動状況調査

南アルプス自然保護官事務所

宮澤 泰子

平成二十二年八月九日から十月二十五日の間、合計七十八日間にわたり北岳で、赤外線センサーカメラによるニホンジカ移動状況調査を行いました。

高山帯に進出しているニホンジカは、通年同じ場所で生活する訳ではありません。一般に山が深い雪で覆われる冬季は標高の低い場所へ下りて、雪が解け山で植物の芽が始める頃にはまた標高の高い場所へと上がっていると考えられます。しかし、では実際にいつ頃、どのような標高、場所移動しているかは把握されていませんでした。ニホンジカの食害対策をするためには、これらのシカの移動状況を知ることが不可欠です。このため、今回の調査では、北岳山域に進出し食害を引き起こしているニホンジカの移動状況を把握することを目的に調査を実施しました。なお、赤外線センサーカメラは、カメラの前を動物が通るとその熱を感知して自動的に撮影するというもので、カメラを使用した調査は野生動物の調査でよく使われる手法です。ニホンジカ対策としても既に国内の他地域で活用されています。

今回は、北岳全域の登山道付近で獣道やシカの糞、食痕等が多く見られシカが頻繁に利用していると考えられる場所を選んでこのカメラを十台設置しました。



足元の悪い斜面での取り付け。苦劳しました。

芦安フアンクラブの皆様協力していただいで、約二週間に一回、二人一組を基本にして北岳に登り、カメラの設置、バッテリーとデータ保存用のメモリーカードの交換、カメラの回収をするという苦劳がありました。このおかげで、シカの移動状況の傾向など興味深いこ

とがデータとして把握され始めたので、紹介します。

期間中に撮影されたシカ個体数は、合計で七百四十四個体でした。シカ以外の動物が九十一個体だったのと比較してシカが非常に多いことが分かりました。出現したシカの雌雄差については、判別できた中では雄の方が多く出現していました。年齢については、雄は角のポイント数をカウントしたところ、一歳令から四歳令以上の個体まで特に年齢の偏りがなく全域を移動していました。

カメラ設置期間中の八月下旬から十月下旬にかけて標高の高い場所から低い場所へ移動していることを裏付けるデータが得られました。標高三千メートル付近のカメラでは八月下旬から九月下旬にかけて出現が多いのに対して、標高千八百七十メートル付近のカメラでは九月下旬から十月下旬に出現が多く見られています。また、十八時台から四時台の出現が多く、この時間帯に活発に動き回っていると考えられました。

シカの対策は、個体数調整や防鹿柵、追い払いなど様々な手法がありますが、データを積み重ねて、場所毎に特に食害の危険性が高い時期に、対策が必要な時期や、活動時間帯などを推測ではなく把握することで、これらの対策を効果的に実施するのに役立つ重要なデー

タになります。

今年度は初の試みで、カメラが太陽光等に反応してしまうことや、群れの頭数や行動を一台のカメラで把握するのに限界があるなどの課題が見えました。次年度以降はより効果的に行動を把握できる手法へと改善し、対策に結びつけていきたいと考えています。



大樺沢沿い標高千八百七十メートル付近、九月二十七日二十三時四十二分

「箱根2日間研修旅行」

昨年十月の定例会で「研修旅行」実施日が十二月六日～七日と決まり、大滝副会長の力を借りながら私達夫婦で幹事をする事になった。今回幹事を担当するまでは「親睦旅行」だと思込んでいたが、冷静に考えれば、NPO法人が年間事業計画の中で補助金もだして実施する訳だから「研修旅行」で当たり前であった。

ようやく「ヒント」が合ってくる中で計画を夫婦で相談し始めたが、まず実施日まで二カ月を切っていること、山梨から一泊二日で往復できること、また十二月という季節が山梨より南方（温かい方面）でないと雪のために荷物が増えたり、タイムスケジュールがズレる等々の制約があった。その上で、芦安FCらしい「研修旅行」という「高いハードル」がコース選択に当たり、かなりのプレッシャーだった。

最初に二日間のそれぞれのメインとなるものを検討した。「一日目は例年通り山行とした。どの山にするか紆余曲折したが、箱根、御殿場方面の中から会員方々のアドバイスをいただき金時山に決めた。金時山は箱根外輪山の中で最も高く、富士山を

始めとした眺望の素晴らしい一年を通じて人気の山らしい。実際に当日も登山口からいくつものグループに遭遇し山頂は大勢の人で一杯、金時娘の茶屋の味、増汁も順番待ちであった。しかし山梨



富士山をバックに

方面に目をやると目の前の大きな富士山とその奥に白根三山がうっすらと美しい山容を見せており、おもわずシャッターを切った。山頂で記念写真を撮り、昼食は山頂から少し下った処でとった。途中にコンビニ寄れず昼飯の無い会員もいたが仲良く分け合って食べた。

予備案に、早く下山できれば芦ノ湖からロープウェイを使つての箱根駒ヶ岳往復も用意していたが、バスまで戻ってくるお陽様も西に傾き始めた時間になっていった。軍中にて参加者の意見を聞き、S会員から箱根上二子山の麓、池周辺の元箱根石仏群が良いと言う紹介があり、箱根駒ヶ岳を中止して精神池へ向かい周辺を散策した。行ってみるとそこは国の指定史跡で歴史公園になっており、二十五菩薩や六道地藏、そして芦安に深く関わる曾我兄弟と虎御前の墓が立っていた。池の横には資料館もあり、大衆信仰のお地藏さんについて学びを深める思わぬ機会となり幹事としてもとても良かった。尚この当たりの詳細説明は芦安FCで任された南アルプス市ふるさと歴史めぐり第3集「芦安」編集に譲る。

山行と石仏、地藏信仰の勉強をして、充実感を得ながら宿泊地の湯河原に無事到着する。今回の旅館は十一月にリニアルオープンしてサービスキャンペーン中という処を旅行会社が探してくれた。旅館内は混雑もなく過ごせ、宴会場も別に部屋を用意していただいたおかげで、芦安FCらしい語らいとゲームで熱気ムンムンの宴会ができた。また、湯河原に宿泊した事で二日目朝、真鶴半島を周遊し相模湾を眺めることができたのも嬉しかった。

二日目は相模湾を後にして小田原経由でもう一度箱根の畑宿まで戻った。ここから芦ノ湖まで登りの旧道歩きである。この選択も思案した。「二日目のメインをどうするか？団体観光バスが立ち寄るような場所を避け、芦安FCらしい施設を探したが、立ち寄りたような施設がなかった。思案しているうち、以前夫婦で箱根旧道を歩いた経験を出した。昔人に思いをはせ、旧道歩きも悪くないかと考えていたところ、妻が、箱根町観光協会で見つけた。芦安FCも山のガイドヘルパーをやっている！他所のガイドヘルパーがどのよう

にやるのかを知る機会はまさに研修であろう。：と言うことで二日目のメインを決めた。しかし二日間とも歩く計画やガイド料金のことが心配になった。そこで大滝副会長にアドバイスを求めることにした。すると、「いいんじゃない」との頼もしい返事で今回の実現に至った。自動車ですアアッと通り過ぎてしまえばただの急な登り坂である。しかしこうして昨日、今日

と自分の足で歩くと、箱根が身近に感じて感慨深いものになる。「二時間三十分歩いて到着した芦ノ湖と富士山はひとときわ美しかった。



思わず見上げた大きな岩

り選んだ。：と言うのは、後からの理屈で「バイク方式」という単語にすぐ釣られる妻が、今回の行程が決まる前からここだけは芦安観光に予約を入れさせておいたコースである。こういう場所に慣れない私は少し緊張したが、「研修旅行」の中でアクセントになったのではないだろうか。ランチが終了し、ほぼ計画通りの時間で帰路になる。帰路は、沼津ICから東名高速で富士ICを使い朝霧高原経由で南アルプス市へ戻った。東名高速では、車窓から夕焼けに染まった南アルプスの稜線がきれいに見える。これから行きたい山の名前が会員から口々に出されて、これも楽しいひと時だった。

幹事の胃を前日までキリキリさせてくれたのは、当日の天気がどうなるかであった。今回の行程は二日間とも屋外徒歩がメインで雨天では中止か決行しても悲惨な結果が見えている。「一応雨天時の変更案を練ってはあったが、雨天では親睦旅行の様な月並みなコースしか計画できず、お奨めできないなとずっと思っていた。雨天だけはどうしても勘弁してほしかったが、気持ちが通じて見事な晴天。これで今回の研修旅行は半分成功と思いつながら、山梨を背にして御殿場へ向かうバスに乗っていた。尚、来年度の反省として、日程はもう少し早く決めた方が良さそうだ。山小屋の会員さんの参加がなかったのが残念のひとつだった。最後に、花岡会長を始め参加された会員の皆様のご協力に幹事として感謝を申し上げます。ありがとうございました。

文責 杉山弘卓
撮影 清水准一

虎御前の鏡立石

虎女の出生地は、西郡筋安通あんついでという山家である。彼女は裕福な家庭に育ち、素質がよく、生来より美人の聞えが高かったので、相州大磯の長者某に乞われて養女となった。養家が客商売の家であったから、曾我十郎祐成がしげしげ出入りしている中、二人は恋仲となった。この石は虎女が鏡を立てたといわれている。

今より約八百年前、安元元年源頼朝は、伊豆の山野において狩猟を催した。その狩倉かりくらが終って帰る途中の赤沢山で工藤祐経すけつねは家来の大見小藤太、八幡三郎等に命じ、曾我兄弟の父河津三郎祐泰すけやすを、弓矢をもって射殺したのである。時に祐泰三十三才、血気盛りの若武者で相撲の名手であり、遺児一万(十郎)五才、弟箱王(五郎)三才であった。

河津三郎の死後、その妻満江は、二人の子供と共に、曾我家に再婚して、曾我の姓を名乗ったのである。文治二年、十郎は十五才になったので元服し、曾我十郎祐成すけなりと称した。

五郎は箱根権現の、行実坊の許もとに預けられ、文武の修業に励んだ。建久二年箱根権現は、箱王(五郎)を神仏の道に入れるべく、剃髪をすすめるのであるが、五郎はこれを嫌い、夜陰に乗じて箱根を脱出し、兄十郎のもとに行き、兄弟揃って富士の福泉寺を訪ずれ、事情を打ち明かした

ところ、上山住職は心よく引受けてくれ、五郎は住職の許もとにおいて、仏式による元服をなし、曾我五郎時致ときむね(十七才)と名乗ったのである。建久二年曾我十郎祐成は、不思議な縁にて虎御前と結ばれ、身の上話しをして見れば、工藤祐経に敵意のあることを知り、双方協力して、工藤祐経に對して、仕返ししげしの策を練る。源頼朝は、征夷大將軍として、鎌倉に幕府を開き、鎌倉武士の遊び場所もつばら大磯であったから、虎女は十郎と相談の上、大磯の料亭に住み込み、動静を探っては、十郎に伝えたのである。建久四年三月、頼朝公が、富士の裾野で巻狩りを行うため、大名小名多数の兵を率いて、鎌倉を出発するといふこの詳細も、虎御前が知らせたと言われている。いよいよ建久四年五月二十八日、富士の巻狩りをした雨の夜、曾我兄弟は、父の仇工藤左門祐経を裾野の陣屋において、討ち取り無念を晴らした。当時、東海道筋においては、大磯の虎、黄瀬川の鶴亀、手越の少将この三人は、街道筋においては、名高い遊君であった。虎御前と、手越の少



将は、義姉妹の約を結んだ間柄であった。

兄弟の生母満江の二度添いの夫は曾我太郎祐信である。鎌倉殿は兄弟の供養料として、元の伊豆入道祐親の、旧領を賜わるべき恩命があった。討入りの夜、十郎祐成は、縁者である仁田四郎忠常に討たれて本望を遂げる。

五郎時致は御狩屋深く入った所で、薄衣を被り女のように装った御所の五郎丸に背後より組まれ、五郎時致はこれを振り払ったが、五郎丸の朋輩、五、六人において取り押えられた。建久四年六月十八日夜、曾我十郎の妾、大磯の虎女の悲しみは限りなく、悲涙にくれながらも、箱根権現において、三十七日の間、仏事を修めたのである。兄弟が、工藤祐経を打ちとつた時、虎は十九歳の花盛りであったが、富士の裾野の、兄弟の仇討ちの場所においても、百ヶ日の供養をすませた後、安通の里に帰り、伊豆権現を勧請し兄弟の霊を弔った。虎は七十余歳の齢を重ねて、この地において亡くなられた。後年村人が、虎の霊を併記して、三社権現とも称していたが、明治になってから、神仏分離令により、伊豆神社となったのである。五郎時致を取り押さえた御所の五郎丸は、女と見せかけて油断をさせ背後から取り押さえたことが武士として最も卑怯なこととして、甲州野牛島に流され、南アルプス市(旧八田村)野牛島にその墓がある。

曾我兄弟の墓は、箱根町の、旧東海道の石畳道に沿った所に、人の背よりも高い、五輪塔にて建てられている。銘によれば、永仁三年造立となっている。なお虎御前の五輪塔も、同時期同所に建てられ、現在石畳と共に、すべてが、国の重要文化財に指定されている。静岡県富士宮市に「曾我寺」がある。曾我氏の言と共に、虎御前も併記され、毎年の例祭には、盛大なる、供養が行なわれている。小田原市、曾我谷津蔵前寺においては、曾我兄弟の、傘焼き祭りが、毎年行なわれる。兄弟が雨の夜に、傘の骨に火をつけて、松明たいまつとし、父の仇工藤祐経を討ち取った故事に、ちなみに、傘を焼いて、曾我兄弟の霊を供養する行事である。

文責 清水 准一



第23回 南アルプス・芦安

登山教室

ユキワリソウを訪ねて 白砂と新緑の峰へ
日向山 錦滝から山頂へ

NPO 法人芦安ファンクラブ(代表 花岡利幸)は、南アルプス市芦安山岳館との共催で登山教室を開催しています。

折々の登山教室では、実践を通して、安全で楽しい登山をするための技術や知識を学んでいます。

今回の登山教室は、岩肌に咲き誇るユキワリソウと花崗岩の白砂が目まぶしい新緑の日向山を訪ねます。

参加者は一人でもグループでも受け付けています。おおいにご参加ください。

参加者募集



みんなで楽しみながら学んで、登って、山の素晴らしさを実感しましょう。

日時 平成22年5月22日(土)~5月23日(日) 受付 12:30~13:00

山名 日向山(1,660m)

プログラム

1日目 5月22日(土)

12:30~13:00 受付
13:00~13:15 開校式
13:15~14:45 研修 「甲斐駒信仰と信仰登山」
山梨県山岳連盟名誉会長 高室陽二郎
14:45~15:30 研修 「安全登山10カ条」他
NPO 芦安ファンクラブ 井口功
15:30 解散

2日目 5月23日(日)

6:50 集合
7:00 芦安山岳館発
8:30 日向山登山口
9:30 錦滝
11:00 雁が原 山頂 昼食(弁当)
12:00 山頂発
13:30 日向山登山口
15:00 芦安山岳館
15:00~15:30 閉校式 修了証書授与

注意事項

天候の悪化によりルートの変更または中止する場合があります。

出発後の体調不良及び登山不適と認められた方は、状況に応じてコース変更または、スタッフ同伴で下山していただくことがありますのでご了承ください。

下山予定が遅れる場合がありますので、帰りの電車の時間など、余裕をもった計画を立ててください。

お申込は

参加条件 健康で登山が可能な方

参加費 ￥17,000/1人(宿泊費1泊2食・弁当・乗合タクシー・保険料・入浴券他)

下山後、入浴をお楽しみください。

予約金は不要ですが最終〆切以後の欠席はキャンセル料￥5,000をいただきます。

定員 30名

最終〆切 平成22年5月14日(金)

申し込み・問い合わせ先

電話かメールでお問合せください。

芦安山岳館 〒400-0241 山梨県南アルプス市芦安芦倉1570番地

Tel 055(288)2125 Fax 055(288)2162

<http://www.catv.wakwak.com/~kitadake/>

申込方法 所定の申込用紙にご記入の上、FAX 又はメールでお申込ください。トラブル回避のため電話での申込は受け付けません。

申込用紙

主催 NPO 芦安ファンクラブ/南アルプス市芦安山岳館

後援 山梨県山岳連盟/NPO 日本高山植物保護協会

百花繚乱 北岳



参加者募集

高嶺の花を楽しみます

「NPO 法人芦安ファンクラブ」(代表 花岡利幸)は、南アルプス市芦安山岳館との共催で登山教室を開催しています。

折々の登山教室では、実践を通して、安全で楽しい登山をするための技術や知識を学んでいます。

今回の教室は、好評にお応えして昨年と同じ北岳のお花畑を楽しみながら山頂を目指す登山教室です。

参加者は一人でもグループでも受け付けています。おおいにご参加ください。

日時 平成22年7月14日(水)～7月15日(木)

集合 芦安山岳館 午前5時

山名 北岳(3193.2m)

コース 広河原 - 大樺沢 - 二俣 - 肩の小屋 - 北岳山頂 - 八本歯コル - 大樺沢 - 広河原

宿泊 北岳肩の小屋

注意事項 積雪量が多い時は、予定したコースを変更することがありますのでご了承ください。必ず軽アイゼンを持参してください。

出発後の体調不良及び登山不適と認められた方は、状況に応じて白根御池小屋止まり、または、下山をお願いすることがありますのでご了承ください。

下山予定が遅れる場合がありますので、帰りの電車の時間など、余裕をもった計画を立ててください。

1日目

芦安山岳館	芦安駐車場 乗合タクシー	広河原着	広河原発 開校式	二俣	肩の小屋
5:00	5:10	5:55	6:30	9:00	14:00		

2日目

肩の小屋	北岳頂上	頂上発	八本歯コル	二俣	広河原 閉校式・昼食	広河原発 乗合タクシー	芦安駐車場
6:00	6:30	7:00	9:00	10:30	12:30	13:30	14:15

2日目の昼食は、下山後、広河原山荘でとりますので、予め行動食をご用意ください。

参加条件 健康で登山が可能な方

参加費 ¥19,000/人(宿泊費1泊2食・2日目昼食付き・乗合タクシー乗車料金・保険料・入浴券他)
下山後、入浴をお楽しみください。

予約金は不要ですが最終〆切以後の欠席はキャンセル料¥5,000をいただきます。

定員 30名

最終〆切 平成22年7月7日(水)

申し込み・問い合わせ先

電話かメールでお問合せください。

芦安山岳館 〒400-0241 山梨県南アルプス市芦安芦倉1570番地

Tel 055(288)2125 Fax 055(288)2162

<http://www.catv.wakwak.com/~kitadake/>

申込方法 所定の申込用紙にご記入の上、FAX 又はメールでお申込ください。トラブル回避のため電話での申込は受け付けません。 **申込用紙**

前夜の宿泊について 早朝出発のため前泊を希望する方はご相談ください。

芦安地内宿泊施設をご予約しますと、登山教室宿泊料10%サービスがご利用いただけます。

第25回 南アルプス・芦安

登山教室

バットレスの迫力に魅せられて 秋のクラシックルート を歩く 山旅
八本歯コル⇒北岳池山吊り尾根 ※北岳山頂には行きません

「NPO 法人芦安ファンクラブ」(代表 花岡利幸)は、南アルプス市芦安山岳館との共催で登山教室を開催しています。

折々の登山教室では、実践を通して、安全で楽しい登山をするための技術や知識を学んでいます。

今回の登山教室は、北岳へのクラシックルート「池山吊り尾根」を歩く秋深い紅葉の山旅の参加者を募集します。

ウラシマツツジで真っ赤に染まるポーコン沢の頭から「北岳バットレス」と対峙する感動をお届けします。

参加者は一人でもグループでも受け付けています。おいにご参加ください。



参加者募集

みんなで楽しみながら学んで、登って、山の素晴らしさを実感しましょう。

日時 平成22年9月25日(土)～9月26日(日)

集合 南アルプス芦安山岳館 午前10時40分(南アルプス市芦安芦倉 1570 番地)

宿泊 白根御池小屋

コース **池山吊り尾根コース** 上級者向き
二俣 八本歯コル ポーコン沢ノ頭 2,802m 歩き沢登山口

装備 初冬の山用の防寒・暴風装備をご用意ください 手袋 耳が覆える帽子 ウインドブレーカー
ー 雨具(防寒着と兼用する) 行動食 ヘッドライト

注意事項 天候の悪化によりルートの変更または中止する場合があります。
出発後の体調不良及び登山不適と認められた方は、状況に応じてコース変更または、スタッフ
同伴で下山していただくことがありますのでご了承ください。

お申込は

参加条件 健康で登山が可能な方

参加費 ¥19,000/人(宿泊費1泊2食・乗合バス・保険料・弁当・入浴券他)

下山後、入浴をお楽しみください。

予約金は不要ですが最終〆切以後の欠席はキャンセル料¥5,000をいただきます。

定員 30名

最終〆切 平成22年9月17日(金)

申し込み・問い合わせ先

電話かメールでお問合せください。

芦安山岳館 〒400-0241 山梨県南アルプス市芦安芦倉 1570 番地

Tel 055(288)2125 Fax 055(288)2162

<http://www.catv.wakwak.com/~kitadake/>

申込方法 所定の申込用紙にご記入の上、FAX 又はメールでお申込ください。トラブル回避のため電話での申込は受け付けません。

申込用紙

登山教室プログラム



1日目 10月2日(土)

- 10:30 ~ 10:40 受付
10:40 ~ 11:30 芦安 広河原
乗合タクシー
- 11:30 ~ 12:00 昼食
各自でご用意ください
- 12:00 ~ 12:10 開校式
12:10 ~ 15:00 登山開始
広河原 白根御池小屋
- 15:30 ~ 16:30 研修
「上手な山岳写真撮影のコツ」高妻潤一郎
- 16:00 ~ 16:10 連絡事項

2日目 10月3日(日)

- 5:00 朝食
5:30 白根御池小屋発
6:00 二俣
8:30 八本歯のコル
10:00 ポーコン沢の頭着
休憩
10:30 ポーコン沢の頭発
12:45 池山小屋着
昼食(弁当)
13:15 池山小屋発
15:15 歩き沢登山口
15:30 ~ 16:45 乗合タクシー
歩き沢登山口 芦安山岳館

16:45 ~ 17:00 閉校式 修了証書授与

ゆっくり汗を流してお帰りください。
入浴は無料です。

◆◆Q & A◆◆

Q：甲府駅から芦安行きバスがでていますか？

A：開校式に間に合うバスは次の1本のみです。

9:00 甲府駅発 芦安 9:45 山岳館(甲府駅前)発 山岳館(甲府駅前)着 約45分です。

Q：2日目下山後、芦安市営駐車場から甲府駅行きのバスはありますか？

A：18:03 芦安市営駐車場 18:13 甲府駅着が唯一のバスです。

Q：上記以外に芦安山岳館 甲府駅間の交通手段はありますか？

A：申し込みの際にご相談ください。

Q：どんな点に注意して装備を用意すればいいですか

A：この季節の山は天候が悪化すれば雪になることもあります。天候の悪化に対応できる装備をご用意ください。

Q：初日の昼食は山岳館付近で買うことができますか。

A：購入できるところが施設から離れていますから、予めご注意ください。

たたいま作成中です

平成22年度 南アルプス・芦安登山教室申込書・誓約書

NPO 法人芦安ファンクラブ 御中

私は、芦安ファンクラブの開催する事業への参加にあたり、次のことを誓います。

1. 注意事項を守り、ガイドの指示に従います。
2. 安全のための予定変更に従います。
3. 自らの健康管理については、自ら責任を持ち、登山中の事故・発病等の不測の事態に際して、主催者に対する責任追及はいたしません。
4. 自らの所持品は自己責任で管理します。

平成 年 月 日

本人署名 _____ (印)

印はなくてもけっこうです

参加申込書

複数の登山教室にお申込の方は、参加コース別に用紙をご記入ください。

参加コースに をつけてください	回数	開催日	コース
	第23回	5月22日(土)～23日(日)	ユキワリソウを訪ねて白砂と新緑の峰へ 日向山
	観察会	6月26日(土)～27日(日)	氷河期の忘れ物を訪ねて 開山祭とキタダケソウ観察会
	第24回	7月14日(水)～15日(木)	百花繚乱 お花畑にご案内します 北岳
	第25回	9月25日(土)～26日(日)	秋のクラシックルートを歩く山旅 北岳池山吊り尾根
グループでお申込の場合は、同行者の氏名をご記入ください			

該当するところに記入または をつけてください

ふりがな氏名		生年月日	昭和 平成	年 月 日 (年齢 歳)	
住所	〒		性別	男 女	
電話番号 FAX番号	自宅	【FAX】			
	携帯				
	緊急時連絡先	【連絡者氏名】	【電話番号】		
メールアドレス	パソコン				
	携帯				
体力度(自己判断)	弱い	やや弱い	普通	やや強い	強い
健康状態	治療している病気や服用している薬などがありましたらご記入ください				
山行履歴	登山暦	年			
	最近の主な山行暦をご記入ください。(例) 富士山頂 平成21年8月				
その他	質問等ありましたらご記入ください				